

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520708

研究課題名(和文) 英語絵本における相互型読み聞かせ指導過程の研究

研究課題名(英文) A Study on Interactive Reading Teaching Methods using English Picture Books

研究代表者

佐藤 久美子 (SATO, Kumiko)

玉川大学・教育学研究科・教授

研究者番号：60154043

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：英語絵本は、小学生の英語教材として特に効果的であること、またその指導方法を明らかにした。以下にその特徴を記す。(1)イラストを通して視覚的に意味が理解できる、(2)英語音声に自然に慣れ親しむ、(3)自然に文字に親しめる、(4)教師と相互作用を取りながら、英語の表現力や積極性が養える、(5)相互型読み聞かせを通して、他の教材で学習したフレーズや単語が復習できる、(6)絵本から離れ、子どもたちが本当に表現したい必然的な場面を与え、絵本で学習した表現を使ってアクティビティや発表会ができる。学年に応じてアクティビティを変えれば、どの学年においても同じ絵本が使えて子どもたちも学習を楽しむことができる。

研究成果の概要(英文)：I showed that English picture books are particularly effective as teaching materials for elementary school students to learn English and made its teaching method clear. I showed through teaching classes using these methods, the following: (1)Students can understand what is written in the texts through the pictures. (2)They can become familiar with English sounds naturally. (3)They can learn letters and words naturally. (4)Through the interaction with teachers, they can build a positive attitude towards trying to speak and in turn foster their speaking ability. (5)Through the interaction with teachers, they can make a review about what they already learned. (6)We can provide students with alternative practical situations where they can show what they want to say using the target sentences they learned from the picture books. By changing the activities, we can use the same books for each grade, and students can continue to enjoy learning English through these books.

研究分野：外国語教育

キーワード：英語絵本 相互型読み聞かせ 視覚 音声 文字 必然的な場面 アクティビティ 発表

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 小学校の教材として英語絵本が有効なことが未だ十分に認識されていなかったが、私はこの研究を始めた 2013 年当時から、英語絵本が良い教材であることを確信していた。それは、町田市教育委員会からの委託で、10 年前から町田市の小学校 42 校にカリキュラムを作成し配信しているが、当初から絵本活動を取り入れ、評判がどんどん上がっていったからである。町田市の子供たちは学年に関わらず、絵本の読み聞かせに大いに興味を持つことが分かった。

(2) 一方で、担任からは英語の発音に自信がない、どのように絵本を指導したら良いか分からない、という意見が多々聞かれた。

(3) 佐藤 (2008, 2009, 2010, 2011) より、絵本の読み聞かせにおける児童の理解過程や母親のスピーチの特徴を教員に応用した読み聞かせの指導法についてのヒントを得たが、実際に教員と児童が絵本を読むときの教師の読み方や児童の理解、発話力を引き出す相互型指導方法については解明されていなかった。

### 2. 研究の目的

(1) 上記の背景から、佐藤の研究データに基づき、英語の発話力を引き出す相互型絵本の指導法の解明・考察を行う。

(2) 複数の小学校で、この指導方法を基にした検証授業を行い、絵本読みに適した指導方法の確立を目指す。

### 3. 研究の方法

(1) 保育園での調査：保育園児 3 ~ 6 歳児を対象として、絵本の読み聞かせ調査を行った。

10 名ずつからなるグループを対象として、絵本の読み聞かせを行う。DVD にその風景を録画すると共に、個人にマイクをつけて、読み聞かせの最中の発話をすべて録音した。

教師は絵本を 1 ページずつ読み聞かせを行いながら、英語あるいは日本語で質問したり、感想を尋ねたりする。

児童には、英語、日本語どちらでもよいので自由に発話させ、その発話をすべて書き起こした。

(2) 小学校での検証授業：保育園での調査から、単に質問したり答えさせたりするのではなく、子どもたちの経験に基づく発話を自由にさせる、英語については繰り返し反復させる、といった指導法が有効であることを検証した。これが、相互型読み聞かせ方法である。それらの指導方法を取り入れた指導案を作成して、小平市、町田市、千代田区、新宿区、

函館市などの複数の小学校において、3 年 ~ 6 年生を対象として担任に実際に授業をしてもらい、その指導方法の検証を行った。

### 4. 研究成果

開発した指導法は以下の通りである。

(1) 表紙について子どもたちと話し、本の内容について推測したり、背景の知識が得られたりするように話し合う。

(2) 一回目の読みを行う。このとき、ターゲットとなる単語などを簡単に反復させながら、読み進める。

(3) 2 度目の読みを行う。ここでは、イラストについて質問したり、関連する子どもたちの経験について尋ねたり、自由に話しながら読み進める。これを相互型読み聞かせと名付けた。合わせて、ターゲットとなる文の反復を行わせながら読み進める。さらに、英語の質問に答えさせるときは、日本語で答えても良いことを伝え、より発話力の推進を狙う。ただし、子どもたちが日本語で答えた内容を、教師はできるだけ英語に置き換えたり、日本語の答えを英語に置き換えて返答するように努力する。これによって、子どもたちは英語を使ってコミュニケーションを取る喜びを感じることができる。さらに、教師が使う英語を、自然に反復するようになった。

(4) ターゲット文を使い、アクティビティーを行う。子供の視線に立った必然的な場面を想定して、ロールプレイや Show & Tell、絵を描かせて発表、などのプレゼンテーションを最終的に行い、話したいことを発表する力をつける。このとき、必ずしも絵本の内容と合致する必要はない。ターゲット文が小学生にとってより日常的に使える場面を考案したり、想像しやすい場面を提供したりすることが大切である。ただし、イラストやストーリーを通して内容を理解しているので、どのように発表するか、子どもたちは想像しやすい。

以上の流れの中で、自由に子どもたちと教師が話しながら絵本を読むことで、恐れずに話す力を養うことができる。また、最終的に自分の経験などを基にしたアクティビティーを行うことが大切で、本当に話したい、と思うことを堂々と話す表現力を養うことをできることを解明した。ただし、高学年になると自分の経験を話したくないという子どももいるので、自分の好きな人になりきって英語で述べるなどの工夫が必要なことも明らかになった。

(5) 担任は自分の英語力に自信がないため、英語を読むことに抵抗を感じやすい。そこで、出版社に協力を要請し、音声ペンを開発した。

これにより、絵本の文字を音声ペンで触れると音がでるので、担任も自分で読まずに、音声ペンを通してネイティブの音を聞かせることが可能になった。音声ペンは気楽に使える、担任が容易に絵本の読み聞かせの予習ができる、子どもたちの反復を促す有効な手段になりえる、などの利点があることが明らかになった。

(6)子どもたちのグループ活動にも、この音声ペンは有効である。音やイントネーションをまねしようとするため、積極的に英語の音をよく聞き、何度も発音練習を行っていた。絵本の視覚から得られる情報のみならず、音声を用いることで、絵本が英語教材として大変有効であることが証明できた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計10件)うち招待講演10件

(1)佐藤久美子、「母子相互作用から見た幼児の言語獲得」、日本幼年教育学会、2016年3月25日、京都ルピノ堀川(京都府京都市)

(2)佐藤久美子、「子供が伸びる英語子育てのコツ」旺文社主催、英語であそぼプラネット講演会、2015年11月7日、資生堂本社会議室(東京都中央区)

(3)佐藤久美子、「子どもたちの動機を高める、絵本を用いた小学校英語の教え方」、函館市上湯川小学校講演会、2015年8月26日、函館市上湯川小学校(北海道函館市)

(4)佐藤久美子、「町田っ子カリキュラムの進め方:絵本を用いた活動」、2015年8月17日、玉川大学(東京都町田市)

(5)佐藤久美子、「話したいと思う気持ちを育てる小学校の英語」、葛飾区教育委員会主催、葛飾区小学校外国語活動研修会、2015年8月9日、青砥小学校(東京都葛飾区)

(6)佐藤久美子、「子どもの言語発達と英語教育」JAPE 夏期幼年教育研修会、2015年7月28日、新横浜国際ホテル(神奈川県横浜市)

(7)佐藤久美子、「小学校における英語教育の進め方:絵本を用いた活動」、外部専門機関と連携した英語指導力向上事業小学校英語教育研修会、2015年7月27日、京都府総合教育センター(京都府綾部市)

(8)佐藤久美子、「絵本を用いた授業」京都府

教育委員会、英語教育強化事業研修会、2015年6月22日、京都府旧館(京都府京都市)

(9)佐藤久美子、「小学校における英語科教育の進め方」、荒川区教育委員会主催、2015年5月15日、荒川区立教員センター(東京都荒川区)

(10)佐藤久美子、「絵本を用いた指導」、京都府教育委員会主催、2015年4月30日、職員福利厚生センター(京都府京都市)

〔図書〕(計2件)

(1)佐藤久美子(著・総合監修)、*Cheese! Meet the Bells: The Zoo is Fun*、ディスカバー・トゥエンティワン、2013

(2)佐藤久美子(著・総合監修)、*Cheese! Meet the Bells: Good morning, Dad*、ディスカバー・トゥエンティワン、2013

〔その他〕(計17件)

(1)佐藤久美子(監修)、『NHK 基礎英語 3 Can-do 総まとめ:書き込み式ワークブック』NHK出版、2016

(2)佐藤久美子、「英語力の正しい伸ばし方」(インタビュー記事)、Newsweek(日本版)、題31巻13、12号、2016、42-43

(3)佐藤久美子、「子供の英語本でまなぶ」(インタビュー記事)、AERA、29号、2016、28-29

(4)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 3」4月号 3月号、全12冊、2015

(5)佐藤久美子、NHK eテレ「英語のオートン」監修、2015

(6)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 3」講師 2013、2014、2015

(7)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 3」4月号 3月号、全12冊、2014

(8)佐藤久美子(著・総合監修)、『ハッピープラネット』、旺文社、2014

(9)佐藤久美子、「バイリンガルキッズはこう育てる」(インタビュー記事)、Newsweek(日本版) Special Issue、2014、90-92

(10)佐藤久美子、「0歳からの英語は「発音」と「慣れ」がポイント」(インタビュー記事)別冊宝島、2138号、2014、40-43

(11)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 3」4月号-3月号、全12冊、2013

(12)佐藤久美子(著・総合監修)『えいごであそぼ PLANET:B0 のいえたよコース』、旺文社、2013

(13)佐藤久美子(著・総合監修)『えいごであそぼ PLANET:BEA のきけたよコース』、旺文社、2013

(14)佐藤久美子、「英語は早く始めた方がいいの？」(インタビュー記事)、AERA with Baby, 12月号、2013、24-25

(15)佐藤久美子、NHK テレビ「英語であそぼ」総合指導、2012年から現在に至る

(16)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 2」講師 2012

(17)佐藤久美子、NHK ラジオ「基礎英語 2」4月号-3月号、全12冊、2012

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

佐藤 久美子 (SATO, Kumiko)

玉川大学・教育学研究科・教授

研究者番号： 60154043